

ライフケアガーデン湘南 5階

症 例 概 要 利用者氏名：90代 女性 要介護4

利用期間 ：令和6年11月頃 ～ 令和7年2月現在

経 過 ：当ホーム近くの富士山が見えるマンションで暮らしていましたが、奥さんの転倒・骨折を機に介護が必要となり、ご主人の負担も増大。奥さんのショートステイを経て、入居をご決断される。

入居後は「夫婦で自宅と変らない富士山が見たい」のご要望に、OurTeamで素早い対応を行い短期間で応える事が出来た事例

内 容

当ホームに近くのマンションから富士山が見える部屋にご夫婦2人で生活していました。

令和6年9月頃、奥さんがマンションエレベーター内で転倒し左肩骨折。自宅療養中にベッドから2度転落や長時間の臥床により褥瘡発生。さらに、尿閉塞、膀胱留置カテーテル管理が必要になり、とうとうご主人の介護生活が限界に達しました。

そこで、当ホームのショートステイを利用する事になりましたが、環境変化に不安な様子があり会話も少なくお部屋で過ごす事日々が続きました。

R6年11月ユマニチュードケア「見る・触れる」を取入れたケアを統一した事により、安心した表情へ変化がありました。音楽クラブや季節行事参加を通じ、当初見られなかった笑顔やコミュニケーション、会話が増え、食事摂取量も増加、毎日の体操に参加するなど意欲が向上。ご主人は「可能な限り自宅で介護を継続したい」と意向を持ちつつも、介護負担の増大を実感していました。

ケアマネジャー・看護・介護・営業など多職種で今後の生活について話し合い、ショートステイ利用中の奥さんやスタッフの様子をご覧になり、ご主人も納得して1月本入居を選択されました。

入居後しばらくして2階の居室から富士山が見えないことに落胆されるご様子が伺え、今までは毎日マンションから富士山を見て過ごされていた為「富士山を望む暮らし」を考慮する必要があるのでは?という現場からの提案がありました。

ご主人とも話し合いを重ね、5階へ転居する事になりました。転居当日、カーテンを開けて眺める富士山に涙を浮かべて喜ばれていました。ご主人は自宅で生活しながら頻繁に面会に訪れ、2人で富士山を眺める時間を共有しています。

今回は、ご主人の介護負担軽減、ショートステイ利用、2階入居・そして5階に転居されるまでの支

援、環境の変化にユマニチュードケアを実践した結果、QOL向上につながりました。特に、「大好きな富士山が見たい」という思いに対して素早く短期間で実現する事が出来ました。今後も安心して生活できる環境の提供と愛情を持って親身な対応に努めて参ります。